



撮影場所：京都府 貴船神社

頽 廢 墮 落

— 登ることは難しく、下ることは早い —

自 共
助

Vol. 40

昭和の碩学故 安岡正篤先生はその著書の中で、
「人間は、修練しないと環境と共に安易に頽廢する。
山でも登ることは容易ではないが、下ることは早い。
人間も鍛錬陶冶して築き上げることは難しいが、
頽廢墮落は非常に早いものだ。」

と書いておられます。

また、最も人間らしい行為とは、「意味への意志」を持つ事
とも書いておられます。

何を考え、何を行動するにも意味、意義を考える。

それでこそ人間であると述べておられ、全く共感するところ
があります。

今日、日本の為政者は、日本を一体どういう国にしたいの
か、その意図が極めて不明確なままに、長い間この国の舵取
りをしている様に思えてなりません。

組織は、そのリーダーの識見により発展もすれば、衰退もす
るのは言うまでもないことです。

まして、国家においては況やです。

一例が「働き方改革」と称する官主導の画一的統制労働
強化とも言える、後世日本を弱体化させた原因と言われるに
違いない愚策です。

2018年のデータで、日本の一年間の労働時間は1,680時
間で世界23位でしかなく、既に日本は働いてない国の一つ
でしかありません。

加えて、一人当たりのGDPは26位で、1位のルクセンブル
クの1/3位でしかないのを、果たして今の為政者は知って
いるのでしょうか。

さらに、日本の財政は世界最悪で国家の負債は、2017年
12月から2019年12月迄のたった2年間で140兆5,000億円
以上も増え、既に2020年1月現在で1,210兆3,600億円
に達している現実をどう考えているのでしょうか。

今、日本にとって必要な事は国民1人1人が自助の精神を
取り戻し、日本の再生に向けて、勤労、勤勉の国民に立ち戻
るべきだと考えます。

私も年齢的に60代後半になり、自分の残りの時間を考え
て生きる中で、次世代へ日本人としての誇りと可能性を遺し
てゆく責任を強く感じる様になってきています。

日本は、その徳性と勤勉さに裏打ちされた、技術、知財を
誇ってきた国でありました。

その日本人の特性を伸ばすどころか、破壊をしてゆく今の為
政者は、このままゆけば10年後、20年後に衰退しきった日
本の結末に果たしてどう責任をとるつもりなのでしょうか。

我々は、こうした無責任でおろかな国策に惑わされる事なく、
個々人が確かな信念を持って、自ら、そして自分達の組織や
地域の未来を切り拓く努力をしてゆくしかないと思います。

生年は百に満たれども ただ千歳の憂いを懐く

(人は生きても百年だが、千年後の世の憂いを考える)
という気概を持って、時代と共に変えてゆくべき手法と、変え
てはいけない原理原則を明確にしてゆく識見を養ってゆきた
いものです。

徳真会グループ
代表 松村 博史